

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	自然科学		
担当教員	金本 直登		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	公務員試験に向けて自然科学分野の基礎力を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学① 2. 自然科学② 3. 自然科学③ 4. 自然科学④ 5. 自然科学⑤ 6. 自然科学⑥ 7. 自然科学⑦ 8. 自然科学⑧ 9. 自然科学⑨ 10. 自然科学⑩ 11. 自然科学⑪ 12. 自然科学⑫ 13. 自然科学⑬ 14. 自然科学⑭ 15. まとめ 期末試験 		
教科書	よくわかる数的推理(田辺勉:実務教育出版) 速読英単語(早見寛:実務教育出版)		
参考書	配布資料		
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(前期)																
科目名	保健体育 I																		
担当教員	竹本 浩久																		
学年	1年	学科	救急救命																
単位数	2単位	時間数	30(15)時間																
学習目標	救急救命士や消防職員採用試験に必要な基礎体力を養う。 消防職員採用試験に向けトレーニングを習慣化する。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 基礎体力測定①</td> <td>自身の基礎体力を把握する</td> </tr> <tr> <td>2. 基礎体力測定②</td> <td>自身の基礎体力を把握する</td> </tr> <tr> <td>3. 基礎トレーニング</td> <td>自重や器具による体力向上を図るトレーニング</td> </tr> <tr> <td>4. 基礎トレーニング</td> <td>自重や器具による体力向上を図るトレーニング</td> </tr> <tr> <td>5. 基礎トレーニング</td> <td>自重や器具による体力向上を図るトレーニング</td> </tr> <tr> <td>6. 基礎トレーニング</td> <td>自重や器具による体力向上を図るトレーニング</td> </tr> <tr> <td>7. 基礎トレーニング</td> <td>自重や器具による体力向上を図るトレーニング</td> </tr> <tr> <td>8. 前期 効果測定</td> <td></td> </tr> </table>			1. 基礎体力測定①	自身の基礎体力を把握する	2. 基礎体力測定②	自身の基礎体力を把握する	3. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング	4. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング	5. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング	6. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング	7. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング	8. 前期 効果測定	
1. 基礎体力測定①	自身の基礎体力を把握する																		
2. 基礎体力測定②	自身の基礎体力を把握する																		
3. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング																		
4. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング																		
5. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング																		
6. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング																		
7. 基礎トレーニング	自重や器具による体力向上を図るトレーニング																		
8. 前期 効果測定																			
教科書																			
参考書																			
評価方法	効果測定の得点結果を主体に、出席状況・受講態度等により総合的に評価する。 効果測定は消防職員採用試験の内容に準じて行う。																		
備考	授業中の、居眠り・私語・頭髪・服装の乱れ等ある場合は評価の対象とする。 体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席) 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	倫理		
担当教員	曾田 修治		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	<p>生命倫理の基礎知識と基本的な考え方を理解する。</p> <p>医療系専門学生、社会人、消防仁など救助者の各倫理について理解する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生倫理 2. 社会人倫理 3. 生命倫理と医の倫理 4. 消防倫理(安全管理と事故対応) P276-281 5. 消防業務・救急業務 6. 救急救命士の倫理(救急救命士法) 260-270 7. 生命倫理と医の倫理総論 8. まとめと期末試験 		
教科書	<p>学生のしおり、消防法等</p> <p>改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)12-17</p>		
参考書			
評価方法	<p>期末試験はレポートを主体に総合的に評価する。</p>		
備考	<p>出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。</p> <p>居眠り注意3回で欠席1とする。</p> <p>詳細は「学生便覧」を参照のこと。</p>		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	解剖生理学 I		
担当教員	内藤 一郎		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	3単位	時間数	45時間
学習目標	解剖生理学は、人体の構造と機能を理解する科目です。 この科目を学ぶことで、救急救命士に必要な医学の基礎知識を習得することが目標です。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する要素(①細胞、②組織、③臓器) 2. 人体を構成する要素(④体液、⑤酸塩基平衡、⑥浸透圧) 3. 生命の維持(①栄養と代謝) 4. 生命の維持(②外呼吸) 5. 生命の維持(③酸素の運搬、④組織での酸素代謝) 6. 生命の維持(⑤内部環境の維持) 7. 体表から見る人体の構造(①位置・方向を表す用語、②運動の方向、③体の区分) 8. 体表から見る人体の構造(④頭部と体幹の構造、⑤四肢の構造) 9. 体表から見る人体の構造(⑥体表の指標、⑦身体各部の役割、⑧体腔と臓器の位置) 10. まとめと中間試験 11. 消化器系(①構成と役割、②口腔と咽頭) 12. 消化器系(③食道、④胃) 13. 消化器系(⑤小腸、⑤大腸、⑥肝臓) 14. 消化器系(⑦胆道、⑧膵臓、⑨腹膜) 15. 呼吸器系(①呼吸の役割、②上気道) 16. 呼吸器系(③下気道、④呼吸運動、⑤肺) 17. 呼吸器系(⑥酸素の輸送、⑦呼吸の調節) 18. 循環器系(①構成と役割、②心臓の構造) 19. 循環器系(③刺激伝導系と心周期、④冠循環、⑤ポンプ機能) 20. 循環器系(⑥脈管、⑦循環の制御) 21. 泌尿器(①構成と役割、②腎の構造) 22. 泌尿器(③尿、④泌尿器) 23. まとめと期末試験 		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) ○×問題でマスター 解剖生理(医歯薬出版)		
参考書			
評価方法	学科試験のみで評価します。		
備考	難しい内容ですが、予習・復習をしっかりすれば十分理解できる内容です。 他の学生のことを考えて、私語をする方には退出をお願いします。 その他「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	病理学・法医学		
担当教員	藤井 昌江		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	<p>病理学: 疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。 法医学: 死の定義や損傷の成り立ち、医学的判断を習得する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 病理学で学ぶこと 第2章 細胞・組織の障害と修復、炎症 2. 第3章 免疫、移植と再生医療 3. 第4章 感染症 4. 第5章 循環障害 5. 第6章 代謝障害 6. 代謝障害②(標準テキスト 代謝障害) 7. 第8章 先天異常と遺伝子異常 8. 第9章 腫瘍 9. 第10章 生活習慣と環境因子による生体の障害 10. 第11章 循環器系の疾患 第12章 血液・造血器系の疾患 11. 第13章 呼吸器系の疾患 第14章 消化器系の疾患 12. 第15章 腎・泌尿器・生殖器系および乳腺の疾患 第16章 内分泌系の疾患 13. 第17章 脳・神経・筋肉系の疾患 第18章 骨・関節系の疾患 第19章 眼・耳・皮膚の疾患 14. 第7章 老化と死 標準テキスト 損傷 15. 法医学(標準テキスト 死) 		
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 病理学: 疾病のなりたちと回復の促進1(医学書院)</p>		
参考書			
評価方法	<p>学科試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。</p>		
備考	<p>居眠り・私語・服装の乱れ等ある場合は、退室を求める。</p>		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	薬理学		
担当教員	宇野 文夫		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	薬物の作用や動態を通じて薬剤投与に関する理解を深め、薬剤の作用・適応・使用量及び副作用について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物について 2. 薬と体内の挙動 3. 薬物の吸収と経路 4. 薬が作用するしくみ 5. 薬物の副作用と有害作用 6. 輸液・輸血と薬剤管理 7. 救急で使用する薬物 8. まとめとテスト 		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書	改訂第9版救急救命士標準テキスト上巻(へるす出版)		
評価方法	学科試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	居眠り・私語・服装の乱れ等ある場合は、退室を求める。 その他「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	感染症と予防・微生物学		
担当教員	宇野 文夫		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	<p>疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。 感染症の種類と予防及び免疫の仕組みを理解する。 微生物の概要・消毒と滅菌方法を理解する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症総論① 2. 感染症総論② 3. 感染症総論③ 4. 感染症総論④ 5. 感染対策① 6. 感染対策② 7. 病院実習に向けての感染予防 8. まとめと試験 		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書	改訂第9版救急救命士標準テキスト上巻(へるす出版)		
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況・受講態度等で総合的に評価する。		
備考	「学生便覧」を参照		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																														
科目名	社会福祉学																																
担当教員	大治 広美																																
学年	1年	学科	救急救命																														
単位数	2単位	時間数	30時間																														
学習目標	公衆衛生の基本的考え方を理解し、国民の健康及び地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。																																
授業計画	<table border="0"> <tr><td>1. 保健医療制度①</td><td>20-23</td></tr> <tr><td>2. 保健医療制度②</td><td>23-27</td></tr> <tr><td>3. 保健医療制度③</td><td>27-29</td></tr> <tr><td>4. 保健医療制度④</td><td>29-33</td></tr> <tr><td>5. 保健医療制度⑤</td><td>33-35</td></tr> <tr><td>6. 保健医療制度⑥</td><td>35-37</td></tr> <tr><td>7. 保健医療制度⑦</td><td>37-39</td></tr> <tr><td>8. 保健医療制度まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>9. 社会保障・社会福祉①</td><td>40-42</td></tr> <tr><td>10. 社会保障・社会福祉②</td><td>42-44</td></tr> <tr><td>11. 社会保障・社会福祉③</td><td>44-46</td></tr> <tr><td>12. 社会保障・社会福祉④</td><td>46-49</td></tr> <tr><td>13. 社会保障・社会福祉⑤</td><td>49-52</td></tr> <tr><td>14. 社会保障・社会福祉まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>15. まとめ・期末試験</td><td></td></tr> </table>			1. 保健医療制度①	20-23	2. 保健医療制度②	23-27	3. 保健医療制度③	27-29	4. 保健医療制度④	29-33	5. 保健医療制度⑤	33-35	6. 保健医療制度⑥	35-37	7. 保健医療制度⑦	37-39	8. 保健医療制度まとめ		9. 社会保障・社会福祉①	40-42	10. 社会保障・社会福祉②	42-44	11. 社会保障・社会福祉③	44-46	12. 社会保障・社会福祉④	46-49	13. 社会保障・社会福祉⑤	49-52	14. 社会保障・社会福祉まとめ		15. まとめ・期末試験	
1. 保健医療制度①	20-23																																
2. 保健医療制度②	23-27																																
3. 保健医療制度③	27-29																																
4. 保健医療制度④	29-33																																
5. 保健医療制度⑤	33-35																																
6. 保健医療制度⑥	35-37																																
7. 保健医療制度⑦	37-39																																
8. 保健医療制度まとめ																																	
9. 社会保障・社会福祉①	40-42																																
10. 社会保障・社会福祉②	42-44																																
11. 社会保障・社会福祉③	44-46																																
12. 社会保障・社会福祉④	46-49																																
13. 社会保障・社会福祉⑤	49-52																																
14. 社会保障・社会福祉まとめ																																	
15. まとめ・期末試験																																	
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 20-39, 40-52																																
参考書																																	
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																																
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																																

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																														
科目名	救急医学概論 I																																
担当教員	曾田 修治																																
学年	1年	学科	救急救命																														
単位数	2単位	時間数	30時間																														
学習目標	救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。 救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を習得する。 救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。																																
授業計画	<table border="0"> <tr><td>1. 救急医療体制①</td><td>218-224</td></tr> <tr><td>2. 救急医療体制②</td><td>225-231</td></tr> <tr><td>3. 救急医療体制まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>4. 災害医療体制①</td><td>232-238</td></tr> <tr><td>5. 災害医療体制②</td><td>238-244</td></tr> <tr><td>6. 災害医療体制まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>7. 消防機関における救急活動の流れ</td><td>245-252</td></tr> <tr><td>8. 消防機関における救急活動の流れ</td><td></td></tr> <tr><td>9. 救急救命士の生涯教育</td><td>271-275</td></tr> <tr><td>10. 病院前医療体制と救急活動の流れ</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>11. コミュニケーション</td><td>253-259</td></tr> <tr><td>12. 生涯学習・安全管理</td><td>271-281</td></tr> <tr><td>13. 感染対策</td><td>282-293</td></tr> <tr><td>14. ストレスマネジメント</td><td>294-297</td></tr> <tr><td>15. まとめ・期末試験</td><td></td></tr> </table>			1. 救急医療体制①	218-224	2. 救急医療体制②	225-231	3. 救急医療体制まとめ		4. 災害医療体制①	232-238	5. 災害医療体制②	238-244	6. 災害医療体制まとめ		7. 消防機関における救急活動の流れ	245-252	8. 消防機関における救急活動の流れ		9. 救急救命士の生涯教育	271-275	10. 病院前医療体制と救急活動の流れ	まとめ	11. コミュニケーション	253-259	12. 生涯学習・安全管理	271-281	13. 感染対策	282-293	14. ストレスマネジメント	294-297	15. まとめ・期末試験	
1. 救急医療体制①	218-224																																
2. 救急医療体制②	225-231																																
3. 救急医療体制まとめ																																	
4. 災害医療体制①	232-238																																
5. 災害医療体制②	238-244																																
6. 災害医療体制まとめ																																	
7. 消防機関における救急活動の流れ	245-252																																
8. 消防機関における救急活動の流れ																																	
9. 救急救命士の生涯教育	271-275																																
10. 病院前医療体制と救急活動の流れ	まとめ																																
11. コミュニケーション	253-259																																
12. 生涯学習・安全管理	271-281																																
13. 感染対策	282-293																																
14. ストレスマネジメント	294-297																																
15. まとめ・期末試験																																	
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)218-281, 294-297																																
参考書																																	
評価方法	期末試験の得点結果を主体に総合的に評価する。																																
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																																

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(前期)																														
科目名	救急医学概論Ⅱ(観察・判断)																																
担当教員	山岸 英雄																																
学年	1年	学科	救急救命																														
単位数	4単位	時間数	60(30)時間																														
学習目標	病院前救護に必要な観察・判断の基礎知識について理解する。																																
授業計画	<table border="0"> <tr><td>1. 観察総論①</td><td>300-301</td></tr> <tr><td>2. 観察総論②</td><td>301-303</td></tr> <tr><td>3. 全身観察①</td><td>304-307</td></tr> <tr><td>4. 全身観察②</td><td>307-310</td></tr> <tr><td>5. 全身観察③</td><td>310-311</td></tr> <tr><td>6. 局所観察①</td><td>311-317</td></tr> <tr><td>7. 局所観察②</td><td>317-321</td></tr> <tr><td>8. 全身観察・局所観察まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>9. 神経所見の観察①</td><td>322-324</td></tr> <tr><td>10. 神経所見の観察②</td><td>324-326</td></tr> <tr><td>11. 緊急度・重症度判断</td><td>327-331</td></tr> <tr><td>12. 資器材による観察①</td><td>332-337</td></tr> <tr><td>13. 資器材による観察②</td><td>337-343</td></tr> <tr><td>14. 後半まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>15. まとめと期末試験</td><td></td></tr> </table>			1. 観察総論①	300-301	2. 観察総論②	301-303	3. 全身観察①	304-307	4. 全身観察②	307-310	5. 全身観察③	310-311	6. 局所観察①	311-317	7. 局所観察②	317-321	8. 全身観察・局所観察まとめ		9. 神経所見の観察①	322-324	10. 神経所見の観察②	324-326	11. 緊急度・重症度判断	327-331	12. 資器材による観察①	332-337	13. 資器材による観察②	337-343	14. 後半まとめ		15. まとめと期末試験	
1. 観察総論①	300-301																																
2. 観察総論②	301-303																																
3. 全身観察①	304-307																																
4. 全身観察②	307-310																																
5. 全身観察③	310-311																																
6. 局所観察①	311-317																																
7. 局所観察②	317-321																																
8. 全身観察・局所観察まとめ																																	
9. 神経所見の観察①	322-324																																
10. 神経所見の観察②	324-326																																
11. 緊急度・重症度判断	327-331																																
12. 資器材による観察①	332-337																																
13. 資器材による観察②	337-343																																
14. 後半まとめ																																	
15. まとめと期末試験																																	
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 300-343																																
参考書																																	
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																																
備考	<p>補足授業の必要がある場合は、シミュレーション実習Ⅰで行う。 授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。</p>																																

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(後期)																					
科目名	救急医学概論Ⅱ(2) (救急救命士の行う処置他)																							
担当教員	曾田 修治																							
学年	1年	学科	救急救命																					
単位数	4単位	時間数	60(30)時間																					
学習目標	病院前救護活動に必要な救急処置の基礎について理解する。																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 救急救命士が行う処置①</td> <td>344-351</td> <td>気道確保、異物異物除去、吸引</td> </tr> <tr> <td>2. 救急救命士が行う処置②</td> <td>368-375</td> <td>酸素投与、人工呼吸</td> </tr> <tr> <td>3. 救急救命士が行う処置③</td> <td>368-375</td> <td>胸骨圧迫、自動心マ、電気ショック</td> </tr> <tr> <td>4. 救急救命士が行う処置④</td> <td>376-383</td> <td>体位管理・体温管理・止血・創処置</td> </tr> <tr> <td>5. 救急救命士が行う処置⑤</td> <td>405-415</td> <td>固定</td> </tr> <tr> <td>6. 救急救命士が行う処置⑥</td> <td>405-415</td> <td>固定他</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7. まとめ・中間試験</td> </tr> </table>			1. 救急救命士が行う処置①	344-351	気道確保、異物異物除去、吸引	2. 救急救命士が行う処置②	368-375	酸素投与、人工呼吸	3. 救急救命士が行う処置③	368-375	胸骨圧迫、自動心マ、電気ショック	4. 救急救命士が行う処置④	376-383	体位管理・体温管理・止血・創処置	5. 救急救命士が行う処置⑤	405-415	固定	6. 救急救命士が行う処置⑥	405-415	固定他	7. まとめ・中間試験		
1. 救急救命士が行う処置①	344-351	気道確保、異物異物除去、吸引																						
2. 救急救命士が行う処置②	368-375	酸素投与、人工呼吸																						
3. 救急救命士が行う処置③	368-375	胸骨圧迫、自動心マ、電気ショック																						
4. 救急救命士が行う処置④	376-383	体位管理・体温管理・止血・創処置																						
5. 救急救命士が行う処置⑤	405-415	固定																						
6. 救急救命士が行う処置⑥	405-415	固定他																						
7. まとめ・中間試験																								
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)																							
	※ 後期前倒し授業。415-418頁は2年次婦人科疾患で学ぶため対象外とする。																							
評価方法	期末試験結果を主体とし、小テストの平均点及び出席状況・受講態度を総合的に評価する。																							
備考	<p>補足授業の必要がある場合は、シミュレーション実習Ⅰで行う。</p> <p>授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。</p> <p>居眠り注意3回で欠席1とする。</p> <p>詳細は「学生便覧」を参照のこと。</p>																							

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	検査 I (臨床検査)		
担当教員	稲葉 敏宏		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	臨床検査とは何か、基礎を学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検体検査 一般検査 2. 血液検査 3. 生化学検査 4. 血清・輸血検査 5. 微生物検査・病理検査 6. 生理検査① 7. 生理検査② 8. まとめと試験 		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書	改訂第9版救急救命士標準テキスト上巻(へるす出版)		
評価方法	期末試験		
備考	科目によっては、配布資料を準備します。 その他「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	神経・感覚器疾患		
担当教員	竹本 浩久		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士に必要な神経・感覚器疾患の症候・病態生理について理解する。 症候・病態ごとに観察, 評価, 処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。		
授業計画	1. 神経系疾患 総論 546-557 2. 脳血管障害① 3. 脳血管障害② 4. 中枢神経・末梢神経① 5. 中枢神経・末梢神経② 6. 神経系疾患まとめ 7. 眼・耳・鼻の疾患 630-634 8. まとめと期末試験		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)546-557、630-634		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(前期)																																														
科目名	シミュレーション実習 I																																																
担当教員	竹本 浩久・大治 広美																																																
学年	1年	学科	救急救命																																														
単位数	6単位	時間数	270(135)時間																																														
学習目標	<p>規律訓練及び消防体操を通じて、集団行動の基礎を修得する。 消防署見学、消防学校見学等を通じて、病院前救護活動の基本を理解する。 一次救命処置及びファーストエイドについて修得する。 心肺蘇生法を指導することができる。</p>																																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 基礎訓練①</td> <td>24. 一次救命処置等⑭</td> </tr> <tr> <td>2. 一次救命処(総論)</td> <td>25. 一次救命処置等⑮</td> </tr> <tr> <td>3. 一次救命処置等①</td> <td>26. 基礎訓練⑨</td> </tr> <tr> <td>4. 基礎訓練②</td> <td>27. 一次救命処置等⑯</td> </tr> <tr> <td>5. 一次救命処置等②</td> <td>28. 一次救命処置等⑰</td> </tr> <tr> <td>6. 基礎訓練③</td> <td>29. 一次救命処置等⑱</td> </tr> <tr> <td>7. 一次救命処置等③</td> <td>30. 一次救命処置等⑲</td> </tr> <tr> <td>8. 一次救命処置等④</td> <td>31. 基礎訓練⑩</td> </tr> <tr> <td>9. 基礎訓練④</td> <td>32. 基礎訓練⑪</td> </tr> <tr> <td>10. 一次救命処置等⑤</td> <td>33. 基礎訓練⑫</td> </tr> <tr> <td>11. 基礎訓練⑤</td> <td>34. 一次救命処置等⑳</td> </tr> <tr> <td>12. 一次救命処置等⑥</td> <td>35. 一次救命処置等㉑</td> </tr> <tr> <td>13. 一次救命処置等⑦</td> <td>36. 一次救命処置等㉒</td> </tr> <tr> <td>14. 基礎訓練⑥</td> <td>37. 基礎訓練⑬</td> </tr> <tr> <td>15. 一次救命処置等⑧</td> <td>38. 効果測定②(一次救命処置)</td> </tr> <tr> <td>16. 基礎訓練⑦</td> <td>39. 効果測定②(一次救命処置)</td> </tr> <tr> <td>17. 基礎訓練⑧</td> <td>40. 一次救命処置等㉓</td> </tr> <tr> <td>18. 一次救命処置等⑨</td> <td>41. 基礎訓練⑭</td> </tr> <tr> <td>19. 効果測定①(規律訓練・消防体操)</td> <td>42. 一次救命処置等㉔</td> </tr> <tr> <td>20. 一次救命処置等⑩</td> <td>43. 一次救命処置等㉕</td> </tr> <tr> <td>21. 一次救命処置等⑪</td> <td>44. 一次救命処置等㉖</td> </tr> <tr> <td>22. 一次救命処置等⑫</td> <td>45. 一次救命処置等㉗</td> </tr> <tr> <td>23. 一次救命処置等⑬</td> <td>46. 基礎訓練⑮</td> </tr> </table>			1. 基礎訓練①	24. 一次救命処置等⑭	2. 一次救命処(総論)	25. 一次救命処置等⑮	3. 一次救命処置等①	26. 基礎訓練⑨	4. 基礎訓練②	27. 一次救命処置等⑯	5. 一次救命処置等②	28. 一次救命処置等⑰	6. 基礎訓練③	29. 一次救命処置等⑱	7. 一次救命処置等③	30. 一次救命処置等⑲	8. 一次救命処置等④	31. 基礎訓練⑩	9. 基礎訓練④	32. 基礎訓練⑪	10. 一次救命処置等⑤	33. 基礎訓練⑫	11. 基礎訓練⑤	34. 一次救命処置等⑳	12. 一次救命処置等⑥	35. 一次救命処置等㉑	13. 一次救命処置等⑦	36. 一次救命処置等㉒	14. 基礎訓練⑥	37. 基礎訓練⑬	15. 一次救命処置等⑧	38. 効果測定②(一次救命処置)	16. 基礎訓練⑦	39. 効果測定②(一次救命処置)	17. 基礎訓練⑧	40. 一次救命処置等㉓	18. 一次救命処置等⑨	41. 基礎訓練⑭	19. 効果測定①(規律訓練・消防体操)	42. 一次救命処置等㉔	20. 一次救命処置等⑩	43. 一次救命処置等㉕	21. 一次救命処置等⑪	44. 一次救命処置等㉖	22. 一次救命処置等⑫	45. 一次救命処置等㉗	23. 一次救命処置等⑬	46. 基礎訓練⑮
1. 基礎訓練①	24. 一次救命処置等⑭																																																
2. 一次救命処(総論)	25. 一次救命処置等⑮																																																
3. 一次救命処置等①	26. 基礎訓練⑨																																																
4. 基礎訓練②	27. 一次救命処置等⑯																																																
5. 一次救命処置等②	28. 一次救命処置等⑰																																																
6. 基礎訓練③	29. 一次救命処置等⑱																																																
7. 一次救命処置等③	30. 一次救命処置等⑲																																																
8. 一次救命処置等④	31. 基礎訓練⑩																																																
9. 基礎訓練④	32. 基礎訓練⑪																																																
10. 一次救命処置等⑤	33. 基礎訓練⑫																																																
11. 基礎訓練⑤	34. 一次救命処置等⑳																																																
12. 一次救命処置等⑥	35. 一次救命処置等㉑																																																
13. 一次救命処置等⑦	36. 一次救命処置等㉒																																																
14. 基礎訓練⑥	37. 基礎訓練⑬																																																
15. 一次救命処置等⑧	38. 効果測定②(一次救命処置)																																																
16. 基礎訓練⑦	39. 効果測定②(一次救命処置)																																																
17. 基礎訓練⑧	40. 一次救命処置等㉓																																																
18. 一次救命処置等⑨	41. 基礎訓練⑭																																																
19. 効果測定①(規律訓練・消防体操)	42. 一次救命処置等㉔																																																
20. 一次救命処置等⑩	43. 一次救命処置等㉕																																																
21. 一次救命処置等⑪	44. 一次救命処置等㉖																																																
22. 一次救命処置等⑫	45. 一次救命処置等㉗																																																
23. 一次救命処置等⑬	46. 基礎訓練⑮																																																
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 220-222,332-341,345-351,368-383,394-408,																																																
参考書	規律訓練に関する配布資料等																																																
評価方法	効果測定、出席状況、受講態度を総合的に評価する。																																																
備考	<p>授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な服装や髪型、毛染、ピアス、化粧等を認める場合、原則、欠席1とする。 体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席) 居眠り注意3回で欠席1とする。 「学生便覧」参照</p>																																																

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(前期)
科目名	シミュレーション実習 I		
担当教員	竹本 浩久 ・ 大治広美		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	4単位	時間数	270(135)時間
学習目標	<p>規律訓練及び消防体操を通じて、集団行動の基礎を修得する。 消防署見学、消防学校見学等を通じて、病院前救護活動の基本を理解する。 一次救命処置及びファーストエイドについて修得する。 心肺蘇生法を指導することができる。</p>		
授業計画	<p>47. 一次救命処置等㉔ 48. 一次救命処置等㉕ 49. 一次救命処置等㉖ 50. 基礎訓練⑩ 51. 一次救命処置等㉗ 52. 一次救命処置等㉘ 53. 一次救命処置等㉙ 54. 基礎訓練⑪ 55. 一次救命処置等㉚ 56. 基礎訓練⑫ 57. 一次救命処置等㉛ 58. 基礎訓練⑬ 59. 一次救命処置等㉜ 60. 基礎訓練⑭ 61. 一次救命処置等㉝ 62. 基礎訓練⑮ 63. 一次救命処置等㉞ 64. 一次救命処置等㉟ 65. 基礎訓練⑯ 66. 効果測定③(ファーストエイド) 67. 効果測定③(ファーストエイド) 68. まとめ</p>		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 220-222,332-341,345-351,368-383,394-408		
参考書	規律訓練に関する配布資料等		
評価方法	効果測定、出席状況、受講態度を総合的に評価する。		
備考	<p>授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な服装や髪型、毛染、ピアス、化粧等を認める場合、原則、欠席1とする。 体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席) 居眠り注意3回で欠席1とする。 「学生便覧」参照</p>		